

平成 22 年 1 月 28 日

## 第 118 回 県内企業・業況調査結果

株式会社 鹿児島銀行  
株式会社 鹿児島地域経済研究所

### [ 調査要領 ]

対象期間	平成 21 年 10 ~ 12 月期実績見込み 平成 22 年 1 ~ 3 月期見通し
調査時点	平成 21 年 12 月下旬
対象企業	県内主要企業 509 社
回答状況	回答企業 315 社、回答率 61.9%
特別質問項目	平成 21 年冬のボーナス支給計画について 「高速道路料金の値下げ」、「新型インフルエンザの流行」 が業績に与えた影響について

用語 今期 = 平成 21 年 10 ~ 12 月期 来期 = 平成 22 年 1 ~ 3 月期

前期 = 平成 21 年 7 ~ 9 月期 前年同期 = 平成 20 年 10 ~ 12 月期

予想 = 前期調査時(平成 21 年 9 月下旬)の今期見通し

D.I. = 「良い」 - 「悪い」、「増加」 - 「減少」、いずれも回答企業割合

### 1. 今期の業況 ~ やや改善

今期の業況 D.I. は 43 と、予想( 38) は下回ったものの、前年同期( 51)、前期( 46) を上回り、景況感はやや改善した。

項目別にみると、売上・完工高 D.I. (前期 49 今期 47)、損益 D.I. (同 26 26)、資金繰り D.I. (同 17 17)、いずれも横ばいとなった。

業況 D.I. を産業別にみると、製造業(同 45 33)、建設業(同 53 45)、その他産業(同 49 43) は改善したものの、卸売業(同 38 56)、小売業(同 42 50) はいずれも悪化した。

## 2. 来期の業況見通し ~ やや悪化

**来期の業況見通し** D.I.は 48 と、今期( 43)より悪化する見通し。

項目別にみると、売上・完工高 D.I.(今期 47 来期 43)がやや改善、資金繰り D.I.(同 17 18)は横ばいながら、損益 D.I.(同 26 32)が悪化する見込み。

業況見通し D.I.を産業別にみると、その他産業(今期 43 来期 37)で改善の見込みながら、その他はいずれも今期を下回る見通し(製造業(同 33 47)、建設業(同 45 58)、卸売業(同 56 61)、小売業(同 50 53))。

## 3. 設備投資 ~ 実施割合は前期をやや下回る

**今期設備投資**を実施した企業割合は 31%と、前期(34%)をやや下回った。

**来期に設備投資**を予定している企業割合は 26%と、今期(31%)を下回る見通し。

## 4. 経営上の問題点

**経営上の問題点**としては、「売上・受注不振」(68%)、「競争激化」(56%)、に次いで「製(商)品価格の低下」、「採算・収益の悪化」(ともに 26%)が続き、上位項目では「製(商)品価格の低下」の割合が上昇傾向にあり、順位を上げた。以下「人件費等経費高」(13%)、「原材料・仕入品価格高」(10%)の順となった。

## 5. 平成 21 年冬のボーナス支給計画について

### 冬のボーナス支給計画について

**平成 21 年冬のボーナス支給計画**については、「支給する」企業割合は 84%で、前年を 1 ポイント下回り、「未定」(前年 6% 今年 4%)も前年を 2 ポイント下回った。一方、「支給しない」(同 9% 12%)が前年を 3 ポイント上回り、平成 17 年の調査開始以降、「支給しない」の割合は増加傾向にある。

**1人当たりの支給額**が前年より「増える」とする企業割合は 17%と前年(19%)を下回り、「減る」は 43%と前年(40%)を上回った。また、増加率をみると、「1~3%未満」が 40%(前年 40%)と最も多く、次いで「3~5%未満」、「5~9%未満」、「9%以上」が各 20%となった。増額支給の理由は、「社員の意欲向上」が 47%(同 55%)と最も多く、次いで「業績向上」40%(同 35%)となっている。

一方、「減る」とした企業の減少率は、「9%以上」が 48%(同 45%)と最も多く、次いで「3~5%未満」20%、「5~9%未満」16%となった。減額理由としては、「業績悪化」が 74%(同 84%)と大

半を占め、次いで「経営体質強化に向けた人件費圧縮」22%(同28%)となった。

## 6. 「高速道路料金の値下げ」「新型インフルエンザの流行」が業績に与えた影響について

### 高速道路料金の値下げについて

高速道路料金の値下げが業績に与えた影響については、「変わらない」が82%と大半を占めている。一方、「プラスの影響」「ややプラスの影響」合計で13%、「マイナスの影響」「ややマイナスの影響」合計が5%となり、プラスの影響と回答する割合がマイナスの影響を上回った。

業種別では、その他産業の「旅館・ホテル」でプラスとする傾向、「運輸」でマイナスとする傾向がみられた。

### 新型インフルエンザの流行について

新型インフルエンザの流行が業績に与えた影響については、「変わらない」が64%と6割を超えた。一方、「プラスの影響」「ややプラスの影響」合計は3%にとどまり、「マイナスの影響」「ややマイナスの影響」が33%と、新型インフルエンザの影響はマイナスとする割合が高い結果となった。

業種別では、卸売業、小売業、その他産業でマイナスとする割合が高く、なかでもその他産業の「旅館・ホテル」でマイナスとする傾向が強かった。

以上

[本件に関するお問い合わせ]

株鹿児島地域経済研究所 ( 099-225-7491 )

# 第 118 回 県内企業・業況調査結果集計表

単位: %

四半期別 状況 項目	平成21年7~9月期				平成21年10~12月期				平成22年1~3月期				
	前期実績				今期実績				来期見通し				
	良い (A)	普通 (B)	悪い (C)	D.I. (A)-(C)	良い (A)	普通 (B)	悪い (C)	D.I. (A)-(C)	前回 調査時 今期 見通し	良い (A)	普通 (B)	悪い (C)	D.I. (A)-(C)
自社の業況	6	42	52	46	9	39	52	43	( 38 )	5	42	53	48
製造業	5	45	50	45	14	39	47	33	( 33 )	6	41	53	47
建設業	7	33	60	53	10	35	55	45	( 48 )	3	36	61	58
卸売業	8	46	46	38	6	32	62	56	( 28 )	3	33	64	61
小売業	9	40	51	42	6	38	56	50	( 38 )	4	39	57	53
その他産業	3	45	52	49	6	45	49	43	( 41 )	7	49	44	37
生産高(製造業)	9	39	52	43	15	37	48	33	( 23 )				
売上・完工高	9	33	58	49	13	27	60	47	( 38 )	9	39	52	43
製造業	8	31	61	53	16	29	55	39	( 33 )	11	43	46	35
建設業	20	24	56	36	25	12	63	38	( 42 )	10	22	68	58
卸売業	12	38	50	38	6	23	71	65	( 35 )	3	35	62	59
小売業	11	21	68	57	16	19	65	49	( 41 )	14	35	51	37
その他産業	3	44	53	50	5	37	58	53	( 38 )	6	46	48	42
製品・商品在庫 (適正水準比)	過剰 14	適正 76	不足 10	4	過剰 14	適正 74	不足 12	2					
販売価格	上昇 6	横ばい 55	低下 39	33	上昇 5	横ばい 50	低下 45	40	( 32 )	上昇 3	横ばい 56	低下 41	38
仕入価格	上昇 15	横ばい 69	低下 16	1	上昇 10	横ばい 69	低下 21	11	( 5 )	上昇 9	横ばい 74	低下 17	8
損益	好転 16	横ばい 42	悪化 42	26	好転 17	横ばい 40	悪化 43	26	( 27 )	好転 9	横ばい 50	悪化 41	32
製造業	18	36	46	28	23	36	41	18	( 27 )	11	49	40	29
建設業	18	25	57	39	18	34	48	30	( 43 )	8	39	53	45
卸売業	9	59	32	23	12	44	44	32	( 21 )	3	56	41	38
小売業	18	49	33	15	24	37	39	15	( 19 )	17	44	39	22
その他産業	15	49	36	21	9	47	44	35	( 24 )	7	55	38	31
資金繰り	楽 7	普通 69	窮屈 24	17	楽 6	普通 71	窮屈 23	17	( 20 )	楽 6	普通 70	窮屈 24	18
製造業	8	70	22	14	10	68	22	12	( 18 )	6	70	24	18
建設業	7	71	22	15	8	72	20	12	( 22 )	10	65	25	15
卸売業	6	79	15	9	3	79	18	15	( 8 )	3	82	15	12
小売業	8	56	36	28	2	67	31	29	( 27 )	2	69	29	27
その他産業	6	71	23	17	4	72	24	20	( 22 )	6	69	25	19
雇用人員	過剰 15	適正 78	不足 7	8	過剰 14	適正 78	不足 8	6	( 4 )	過剰 15	適正 77	不足 8	7
製造業	18	74	8	10	15	75	10	5	( 7 )	14	77	9	5
建設業	23	75	2	21	13	79	8	5	( 5 )	20	70	10	10
卸売業	18	82	0	18	18	79	3	15	( 15 )	21	73	6	15
小売業	9	83	8	1	9	85	6	3	( 4 )	13	79	8	5
その他産業	9	80	11	2	14	77	9	5	( 2 )	14	78	8	6

第118回 企業業況アンケート調査

回答率

単位: %

	対象企業	回答企業	回答率
製造業	148	104	70.3
食料品	66	47	71.2
織維	10	5	50.0
木材	6	3	50.0
紙・パルプ	3	3	100.0
窯業・土石	14	11	78.6
機械・金属	19	14	73.7
電機・電子	19	14	73.7
その他	11	7	63.6
非製造業 計	361	211	58.4
建設業	64	40	62.5
土木	22	15	68.2
建築	16	10	62.5
総合建設	12	7	58.3
その他	14	8	57.1
卸売業	62	34	54.8
食料品	29	16	55.2
建設資材	11	7	63.6
衣料品	1	1	100.0
家電製品	5	2	40.0
その他	16	8	50.0
小売業	98	49	50.0
百貨店・スーパー	18	6	33.3
衣料品	9	4	44.4
自動車	16	5	31.3
家電製品	6	2	33.3
石油	11	7	63.6
その他	38	25	65.8
その他	137	88	64.2
旅館・ホテル	22	16	72.7
運輸	33	20	60.6
外食産業	9	4	44.4
サービス	64	40	62.5
農林水産	9	8	88.9
合計(製造+非製造)	509	315	61.9

### 業況D. I. の推移

年月			全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
10年	10~12	月期	28	22	15	39	40	23
11年	1~3	"	24	30	1	30	31	17
	4~6	"	31	26	17	34	41	37
	7~9	"	31	28	30	43	37	20
	10~12	"	11	1	11	8	40	5
12年	1~3	"	11	5	4	18	24	8
	4~6	"	23	14	37	50	13	24
	7~9	"	23	15	35	31	25	21
	10~12	"	13	6	4	15	28	17
13年	1~3	"	22	27	2	18	35	18
	4~6	"	39	42	42	29	41	33
	7~9	"	41	51	30	43	39	28
	10~12	"	34	23	32	30	56	29
14年	1~3	"	34	31	44	37	36	28
	4~6	"	30	18	60	31	34	21
	7~9	"	30	13	52	31	44	24
	10~12	"	18	6	29	22	42	19
15年	1~3	"	25	13	29	19	41	28
	4~6	"	35	16	58	25	58	29
	7~9	"	24	7	48	29	34	25
	10~12	"	17	7	33	33	42	15
16年	1~3	"	12	5	35	8	23	11
	4~6	"	23	2	61	25	43	12
	7~9	"	21	8	37	27	36	14
	10~12	"	7	11	23	6	29	8
17年	1~3	"	24	16	31	17	33	31
	4~6	"	26	17	60	18	24	26
	7~9	"	27	23	40	23	28	25
	10~12	"	18	2	28	8	29	25
18年	1~3	"	22	19	23	14	36	18
	4~6	"	25	17	42	17	32	22
	7~9	"	32	31	33	25	43	28
	10~12	"	27	24	33	30	54	11
19年	1~3	"	24	19	27	35	52	5
	4~6	"	32	31	33	38	44	19
	7~9	"	38	45	31	41	51	19
	10~12	"	33	32	49	22	54	19
20年	1~3	"	34	26	49	32	52	26
	4~6	"	46	45	66	42	63	29
	7~9	"	51	42	68	56	74	38
	10~12	"	51	42	66	48	76	39
21年	1~3	"	53	48	63	38	71	45
	4~6	"	56	59	65	42	63	48
	7~9	"	46	45	53	38	42	49
	10~12	"	43	33	45	56	50	43
22年	1~3	月期見通し	48	47	58	61	53	37

(注) D. I. = 「良い」 - 「悪い」

## 売上・完工高D. I. の推移

			全 産 業	製 造 業	建 設 業	卸 売 業	小 売 業	その他の産業
10年	10 ~ 12	月期	28	20	23	35	26	38
11年	1 ~ 3	"	18	21	4	17	23	17
	4 ~ 6	"	16	8	39	13	12	15
	7 ~ 9	"	14	10	15	32	24	0
	10 ~ 12	"	6	0	30	7	8	10
12年	1 ~ 3	"	3	2	17	7	0	2
	4 ~ 6	"	12	10	42	28	8	7
	7 ~ 9	"	13	8	36	11	4	16
	10 ~ 12	"	17	16	28	20	11	16
13年	1 ~ 3	"	12	20	9	12	5	24
	4 ~ 6	"	30	37	28	19	28	29
	7 ~ 9	"	39	50	40	38	43	17
	10 ~ 12	"	29	23	30	39	26	38
14年	1 ~ 3	"	30	33	33	38	24	22
	4 ~ 6	"	26	15	56	32	21	21
	7 ~ 9	"	18	7	46	25	20	22
	10 ~ 12	"	18	2	25	14	26	33
15年	1 ~ 3	"	21	8	50	10	15	36
	4 ~ 6	"	23	5	45	7	44	26
	7 ~ 9	"	13	0	35	17	18	14
	10 ~ 12	"	17	1	34	25	21	26
16年	1 ~ 3	"	3	30	43	4	14	10
	4 ~ 6	"	10	7	39	10	28	1
	7 ~ 9	"	9	2	39	17	24	6
	10 ~ 12	"	3	12	31	10	14	12
17年	1 ~ 3	"	21	22	41	7	18	19
	4 ~ 6	"	12	9	43	7	7	20
	7 ~ 9	"	17	21	40	13	3	12
	10 ~ 12	"	12	12	30	9	5	16
18年	1 ~ 3	"	13	18	31	16	6	3
	4 ~ 6	"	15	17	33	15	11	8
	7 ~ 9	"	18	22	11	25	17	11
	10 ~ 12	"	20	18	28	33	30	7
19年	1 ~ 3	"	13	18	9	31	17	8
	4 ~ 6	"	22	20	36	29	23	15
	7 ~ 9	"	27	31	34	35	28	14
	10 ~ 12	"	23	8	45	22	50	13
20年	1 ~ 3	"	24	10	32	20	45	27
	4 ~ 6	"	27	15	49	27	44	22
	7 ~ 9	"	35	23	50	38	50	28
	10 ~ 12	"	36	28	46	29	59	27
21年	1 ~ 3	"	50	44	40	38	74	50
	4 ~ 6	"	55	53	56	52	69	50
	7 ~ 9	"	49	53	36	38	57	50
	10 ~ 12	"	47	39	38	65	49	53
22年	1 ~ 3	月期見通し	43	35	58	59	37	42

(注) D. I. = 「増加」 - 「減少」

## 損益D. I. の推移

		全 産 業	製 造 業	建 設 業	卸 売 業	小 売 業	その他の産業
10年	10~12 月期	16	13	19	15	14	20
11年	1~3	8	15	0	9	6	5
	4~6	3	3	20	14	1	6
	7~9	9	4	22	21	5	4
	10~12	4	4	13	4	11	4
12年	1~3	2	3	16	5	1	0
	4~6	9	1	34	24	11	21
	7~9	8	4	18	2	2	18
	10~12	13	9	27	6	8	19
13年	1~3	11	15	0	5	11	18
	4~6	22	39	23	17	0	15
	7~9	29	41	29	23	30	17
	10~12	29	26	44	27	39	14
14年	1~3	21	22	40	15	16	17
	4~6	13	0	42	19	8	9
	7~9	7	8	33	12	3	12
	10~12	11	7	19	16	20	19
15年	1~3	12	1	29	17	3	18
	4~6	13	2	25	19	16	13
	7~9	10	3	25	20	14	13
	10~12	11	4	30	18	13	15
16年	1~3	1	16	31	2	7	2
	4~6	9	2	45	12	13	3
	7~9	7	6	35	9	10	2
	10~12	5	2	28	6	5	13
17年	1~3	18	11	41	0	20	26
	4~6	12	7	42	2	0	20
	7~9	16	17	33	15	4	14
	10~12	13	11	30	5	9	17
18年	1~3	23	22	36	22	19	20
	4~6	22	21	25	9	35	17
	7~9	28	36	24	14	40	22
	10~12	23	16	32	19	42	19
19年	1~3	19	12	32	35	30	3
	4~6	18	16	18	30	23	13
	7~9	24	29	27	25	28	13
	10~12	31	31	38	21	58	13
20年	1~3	29	25	36	29	40	23
	4~6	33	33	51	12	50	26
	7~9	39	35	55	28	48	35
	10~12	46	37	67	41	53	42
21年	1~3	41	41	51	23	53	31
	4~6	38	42	50	26	33	35
	7~9	26	28	39	23	15	21
	10~12	26	18	30	32	15	35
22年	1~3 月期見通し	32	29	45	38	22	31

(注) D. I. = 「好転」 - 「悪化」

## 資金繰り D . I . の推移

			全 産 業	製 造 業	建 設 業	卸 売 業	小 売 業	その他の産業
10年	10 ~ 12	月期	15	7	2	16	22	26
11年	1 ~ 3	"	10	7	2	9	15	15
	4 ~ 6	"	3	2	12	2	9	13
	7 ~ 9	"	11	13	1	18	12	13
	10 ~ 12	"	8	3	4	9	19	14
12年	1 ~ 3	"	4	1	9	8	9	13
	4 ~ 6	"	0	4	13	6	6	15
	7 ~ 9	"	13	9	2	4	17	26
	10 ~ 12	"	11	9	2	5	8	26
13年	1 ~ 3	"	6	4	6	6	8	19
	4 ~ 6	"	11	16	6	5	12	22
	7 ~ 9	"	13	19	7	0	14	20
	10 ~ 12	"	16	12	14	11	22	24
14年	1 ~ 3	"	12	9	10	11	10	24
	4 ~ 6	"	6	2	7	4	6	12
	7 ~ 9	"	12	5	17	12	13	17
	10 ~ 12	"	10	4	2	15	19	22
15年	1 ~ 3	"	6	14	11	13	13	13
	4 ~ 6	"	5	4	8	17	17	23
	7 ~ 9	"	7	1	6	4	15	17
	10 ~ 12	"	9	1	17	4	17	19
16年	1 ~ 3	"	8	5	17	4	19	7
	4 ~ 6	"	3	8	5	2	20	8
	7 ~ 9	"	5	4	14	2	13	8
	10 ~ 12	"	3	1	0	3	13	4
17年	1 ~ 3	"	6	4	11	0	15	14
	4 ~ 6	"	5	0	8	5	13	14
	7 ~ 9	"	12	15	10	4	16	10
	10 ~ 12	"	12	10	9	7	20	17
18年	1 ~ 3	"	9	11	5	5	26	6
	4 ~ 6	"	7	5	2	2	17	7
	7 ~ 9	"	11	11	4	0	24	13
	10 ~ 12	"	13	9	13	0	28	13
19年	1 ~ 3	"	11	14	6	0	28	4
	4 ~ 6	"	7	6	4	7	24	8
	7 ~ 9	"	13	13	5	14	24	11
	10 ~ 12	"	16	12	19	5	35	9
20年	1 ~ 3	"	18	14	23	8	25	17
	4 ~ 6	"	20	16	25	22	34	14
	7 ~ 9	"	26	20	27	23	46	18
	10 ~ 12	"	24	22	31	20	33	18
21年	1 ~ 3	"	21	24	8	14	39	17
	4 ~ 6	"	23	22	22	19	36	15
	7 ~ 9	"	17	14	15	9	28	17
	10 ~ 12	"	17	12	12	15	29	20
22年	1 ~ 3	月期見通し	18	18	15	12	27	19

(注) D . I . = 「楽」 - 「窮屈」

## 業況D.I.

	20年10~12月期	21年7~9月期	21年10~12月期		22年1~3月期
	前年同期	前 期	今期 見通し	今期 実績	来期 見通し
<b>全 業 種</b>	51	46	38	43	48
製 造 業	42	45	33	33	47
食 料 品	21	27	20	26	56
織 繊	50	50	67	60	40
木 材	0	100	50	0	33
紙・パルプ	100	67	67	67	67
窯業・土石	60	67	0	28	46
機械・金属	57	46	26	36	43
電機・電子	77	50	57	43	31
その 他	71	78	78	42	43
建 設 業	66	53	48	45	58
土 木	63	41	53	40	60
建 築	64	46	27	60	56
総 合 建 設	61	50	50	29	71
その 他	80	82	54	50	50
卸 売 業	48	38	28	56	61
食 料 品	37	28	16	50	63
建設 資 材	50	29	43	57	71
その 他	89	63	38	75	71
小 売 業	76	42	38	50	53
百貨店・スーパー	67	50	60	100	100
衣 料 品	100	100	100	75	75
自 動 車	100	25	0	40	20
家電 製 品	50	100	100	0	0
石 油	100	15	15	15	29
その 他	69	41	36	52	56
そ の 他	39	49	41	43	37
旅館・ホテル	20	58	47	57	50
運 輸	62	42	38	27	37
サ ー ビ ス	60	46	36	40	27

## 売上・完工高D.I.

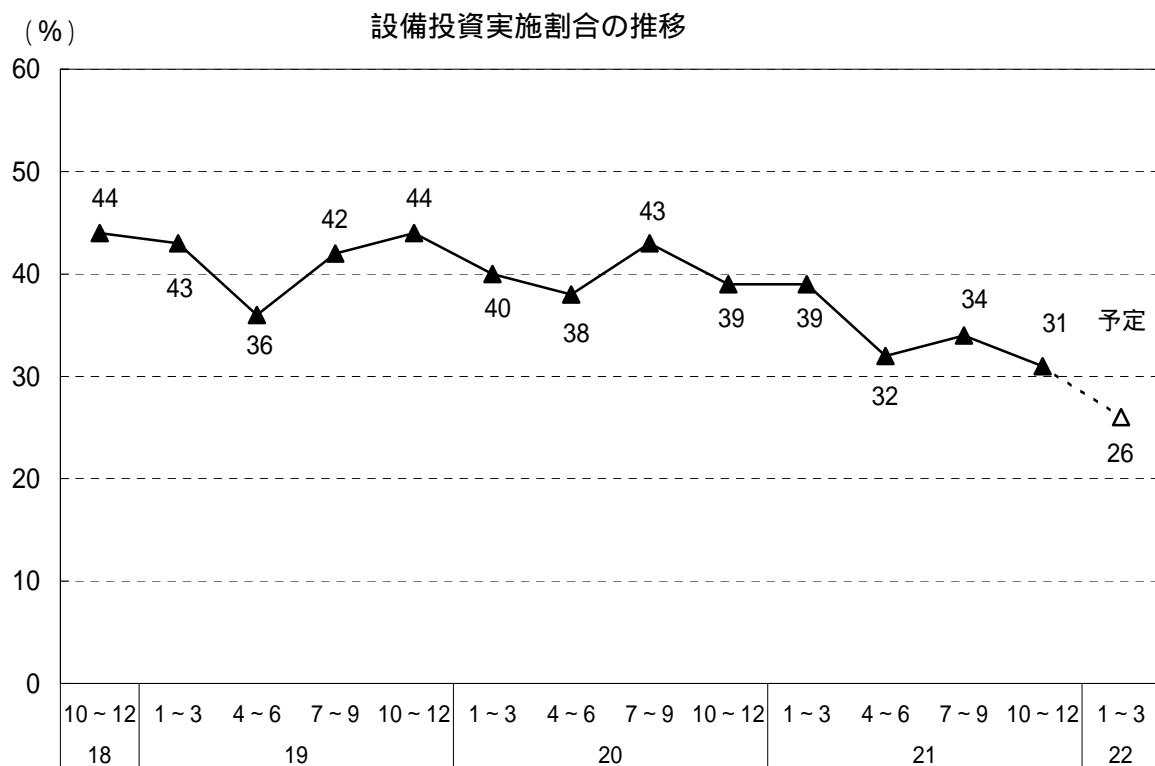
	20年10~12月期	21年7~9月期	21年10~12月期		22年1~3月期
	前年同期	前 期	今期 見通し	今期 実績	来期 見通し
<b>全 業 種</b>	36	49	38	47	43
製 造 業	28	53	33	39	35
食 料 品	0	44	29	42	37
織 繊	33	67	83	20	40
木 材	0	25	25	0	0
紙・パルプ	50	100	100	100	0
窯業・土石	70	58	8	10	46
機械・金属	57	54	20	17	41
電機・電子	61	57	43	57	23
その 他	71	78	50	72	43
建 設 業	46	36	42	38	58
土 木	63	18	53	20	60
建 築	9	28	10	70	50
総 合 建 設	61	33	33	42	100
その 他	46	73	64	25	25
卸 売 業	29	38	35	65	59
食 料 品	5	6	11	57	63
建設 資 材	36	83	71	86	71
その 他	78	75	50	75	63
小 売 業	59	57	41	49	37
百貨店・スーパー	41	50	30	66	83
衣 料 品	100	100	100	75	75
自 動 車	100	50	0	40	20
家電 製 品	0	100	100	50	50
石 油	50	86	50	86	28
その 他	56	50	44	56	40
そ の 他	27	50	38	53	42
旅館・ホテル	35	47	55	66	63
運 輸	28	50	34	50	27
サ ー ビ ス	56	51	35	41	35

## 損益D.I.(前年比)

	20年10~12月期	21年7~9月期	21年10~12月期		22年1~3月期
	前年同期	前 期	今期 見通し	今期 実績	来期 見通し
<b>全 業 種</b>	46	26	27	26	32
製 造 業	37	28	27	18	29
食 料 品	23	18	21	17	42
織 繊	50	0	17	20	0
木 材	0	25	50	0	33
紙・パルプ	100	33	33	34	67
窯業・土石	80	25	0	0	9
機械・金属	36	40	22	22	22
電機・電子	62	56	43	36	7
そ の 他	29	45	56	42	29
建 設 業	67	39	43	30	45
土 木	57	12	41	20	46
建 築	64	46	28	40	40
総 合 建 設	74	40	40	29	57
そ の 他	82	73	64	37	38
卸 売 業	41	23	21	32	38
食 料 品	37	6	6	37	50
建設資材	25	29	29	15	14
そ の 他	78	63	50	38	50
小 売 業	53	15	19	15	22
百貨店・スーパー	33	0	20	33	50
衣 料 品	100	60	60	50	75
自 動 車	86	25	0	60	40
家電製品	0	100	100	100	100
石 油	50	43	15	15	16
そ の 他	52	34	30	28	32
そ の 他	42	21	24	35	31
旅館・ホテル	10	38	53	60	60
運 輸	62	8	21	15	25
サ ー ビ ス	56	22	17	25	18

## 資金繰りD.I.

	20年10~12月期	21年7~9月期	21年10~12月期		22年1~3月期
	前年同期	前 期	今期 見通し	今期 実績	来期 見通し
<b>全 業 種</b>	24	17	20	17	18
製 造 業	22	14	18	12	18
食 料 品	11	5	10	3	5
織 繊	33	0	16	60	40
木 材	0	50	25	0	0
紙・パルプ	0	0	33	0	33
窯業・土石	50	25	9	18	27
機械・金属	21	27	27	29	43
電機・電子	33	14	27	31	33
そ の 他	57	22	38	15	0
建 設 業	31	15	22	12	15
土 木	38	23	23	13	13
建 築	27	0	0	0	0
総 合 建 設	25	17	17	29	43
そ の 他	27	18	46	13	13
卸 売 業	20	9	8	15	12
食 料 品	11	6	5	6	6
建設資材	25	33	29	29	29
そ の 他	33	13	13	38	29
小 売 業	33	28	27	29	27
百貨店・スーパー	18	22	20	50	50
衣 料 品	100	60	60	75	75
自 動 車	14	25	25	20	20
家電製品	0	0	0	0	0
石 油	25	0	0	14	14
そ の 他	40	42	40	24	20
そ の 他	18	17	22	20	19
旅館・ホテル	12	22	33	19	25
運 輸	28	25	21	20	25
サ ー ビ ス	15	10	12	7	3



第118回 設 備 投 資

単位: %

		全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他
21 年 10 ~ 12 月	実施した	31	40	13	21	27	34
	投資目的						
	生産・販売能力増強	47	56	67	33	50	33
	省力化、合理化、省エネ	35	36	67	50	17	33
	経営多角化	5	5	0	0	0	7
	新製品等の研究開発	5	10	0	0	0	0
	その他	35	28	0	33	42	44
実施しなかった		69	60	87	79	73	66
22 年 1 ~ 3 月	実施予定	26	37	8	12	20	32
	投資目的						
	生産・販売能力増強	51	51	100	50	60	44
	省力化、合理化、省エネ	33	35	0	50	0	41
	経営多角化	9	8	0	0	20	7
	新製品等の研究開発	8	14	0	25	0	0
	その他	27	27	0	25	20	30
実施予定なし		74	63	92	88	80	68

(注)計数は構成割合、投資目的は複数回答

## 設備投資実施割合の推移

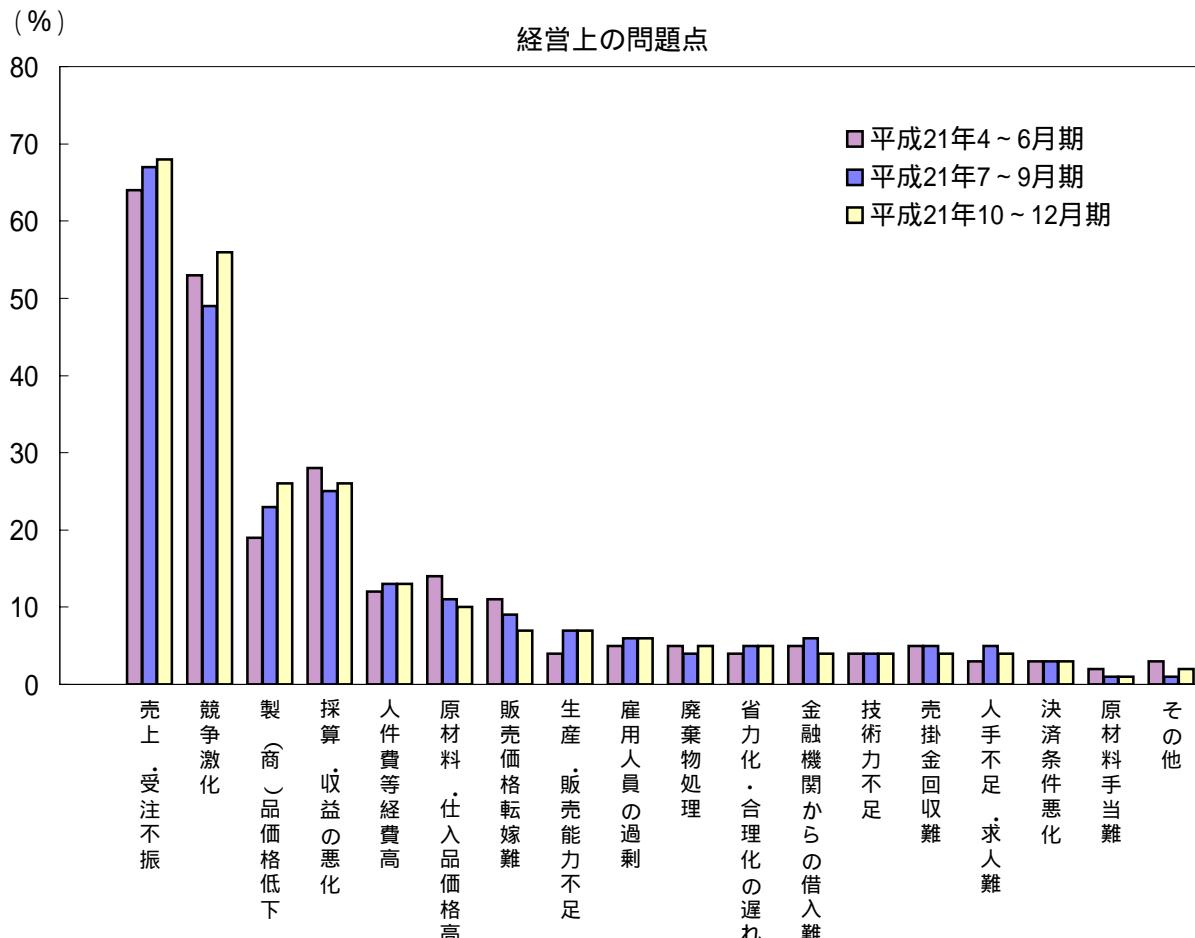
単位：%

月期			全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
10年	10～12	月期	33	37	25	22	28	44
11年	1～3	"	28	32	27	22	18	38
	4～6	"	30	39	19	17	30	33
	7～9	"	31	35	17	29	31	34
	10～12	"	31	39	15	27	31	32
12年	1～3	"	32	40	17	26	28	37
	4～6	"	35	41	26	27	34	38
	7～9	"	36	39	20	43	30	45
	10～12	"	35	45	23	30	30	31
13年	1～3	"	33	40	24	28	22	41
	4～6	"	32	36	24	25	35	31
	7～9	"	34	37	20	33	31	42
	10～12	"	31	40	19	33	29	28
14年	1～3	"	28	30	19	31	27	31
	4～6	"	30	33	15	28	35	35
	7～9	"	33	42	22	28	35	30
	10～12	"	31	37	21	28	27	40
15年	1～3	"	30	40	18	28	24	31
	4～6	"	32	34	14	40	30	38
	7～9	"	33	38	21	30	29	37
	10～12	"	33	43	26	25	22	38
16年	1～3	"	31	45	7	28	30	30
	4～6	"	31	38	33	21	24	33
	7～9	"	35	43	12	24	33	50
	10～12	"	33	36	21	23	36	39
17年	1～3	"	31	35	15	30	24	41
	4～6	"	35	42	26	28	29	39
	7～9	"	39	44	19	35	40	46
	10～12	"	48	59	27	50	39	55
18年	1～3	"	39	48	16	39	40	42
	4～6	"	35	45	15	28	33	40
	7～9	"	34	43	11	27	35	41
	10～12	"	44	50	28	35	44	50
19年	1～3	"	43	50	30	42	41	43
	4～6	"	36	48	20	31	28	40
	7～9	"	42	46	24	38	40	49
	10～12	"	44	58	25	24	42	48
20年	1～3	"	40	50	14	37	38	44
	4～6	"	38	45	11	27	42	45
	7～9	"	43	52	22	33	40	47
	10～12	"	39	49	17	26	29	48
21年	1～3	"	39	55	21	29	32	37
	4～6	"	32	38	14	26	29	37
	7～9	"	34	42	13	25	28	41
	10～12	"	31	40	13	21	27	34
22年	1～3	月期見通し	26	37	8	12	20	32

単位: %

	全産業	構成比	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他
売上・受注不振	68	27.1	62	78	65	70	69
競争激化	56	22.3	40	80	56	79	49
製(商)品価格低下	26	10.4	43	13	29	26	13
採算・収益の悪化	26	10.4	21	33	15	38	26
人件費等経費高	13	5.2	14	8	12	11	17
原材料・仕入品価格高	10	4.0	14	13	12	2	9
販売価格転嫁難	7	2.8	12	0	15	6	2
生産・販売能力不足	7	2.8	7	0	3	15	6
雇用人員の過剰	6	2.4	7	5	3	4	8
廃棄物処理	5	2.0	10	3	0	2	3
省力化・合理化の遅れ	5	2.0	9	3	0	0	5
金融機関からの借入難	4	1.6	7	3	3	6	1
技術力不足	4	1.6	5	5	0	6	3
売掛金回収難	4	1.6	4	3	12	6	0
人手不足・求人難	4	1.6	2	3	0	6	7
決済条件悪化	3	1.2	5	0	3	2	2
原材料手当難	1	0.4	3	0	0	0	0
その他の	2	0.8	0	0	3	2	3
回答企業数	308		100	40	34	47	87

(注) 複数回答につき計算は  $\frac{\text{該当項目の回答数}}{\text{回答企業数}} \times 100$



平成21年 冬のボーナス支給計画（社数構成比）

単位：%

		全産業	前年	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
支給の有無	支給する	84	85	83	69	94	83	89
	月給支給額の1か月分以内	26	22	19	33	19	35	31
	" 1か月分超~1.5か月分以内	34	33	29	33	39	35	36
	" 1.5か月分超~2か月分以内	19	24	21	26	26	15	13
	" 2か月分超	21	21	31	8	16	15	20
	今冬は支給しない	12	9	17	21	3	11	6
	未定	4	6	0	10	3	6	5
	増える	17	19	20	11	23	13	14
	1%未満	0	16	0	0	0	0	0
	1~3%未満	40	40	38	50	29	20	64
一人当たりの支給額	3~5%未満	20	22	31	0	14	40	0
	5~9%未満	20	9	19	0	43	20	9
	9%以上	20	13	12	50	14	20	27
	社員の意欲向上	47	55	59	33	29	40	46
	業績向上	40	35	24	67	57	60	36
	同業他社と比して低い	7	10	12	0	0	0	9
	その他	12	20	12	0	14	0	18
	前年並み	40	41	45	37	32	39	40
	減る	43	40	35	52	45	48	46
	1%未満	4	4	0	0	0	7	9
要因	1~3%未満	12	11	22	7	7	20	6
	3~5%未満	20	22	9	7	29	33	22
	5~9%未満	16	18	13	0	29	13	22
	9%以上	48	45	56	86	35	27	41
	業績悪化	74	84	72	79	71	63	80
	経営体質強化に向けた人件費圧縮	22	28	21	14	21	32	20
	給与と賞与の配分見直し	4	7	0	7	0	16	0
	同業他社に比して高い	1	5	0	0	0	5	0
	社員平均年齢低下	1	0	3	0	0	0	0
	その他	2	1	3	0	7	0	0

高速道路料金の値下げが業績に与えた影響

単位:%、回答企業数=N(310)

全業種 N	プラスの影響	ややプラスの影響	変わらない	ややマイナスの影響	マイナスの影響
製造業 (103)	2	11	82	4	1
食料品 (47)	1	9	87	3	0
織維 (5)	0	6	90	4	0
木材 (3)	0	20	80	0	0
紙・パルプ (3)	0	0	100	0	0
窯業・土石 (11)	0	67	33	0	0
機械・金属 (14)	7	14	79	0	0
電機・電子 (13)	0	0	100	0	0
その他 (7)	0	0	86	14	0
建設業 (40)	3	5	92	0	0
土木 (15)	0	7	93	0	0
建築 (10)	0	0	100	0	0
総合建設 (7)	14	0	86	0	0
その他 (8)	0	13	87	0	0
卸売業 (34)	6	9	85	0	0
食料品 (16)	6	6	88	0	0
建設資材 (7)	0	14	86	0	0
その他 (8)	13	0	87	0	0
小売業 (47)	0	15	77	8	0
百貨店・スーパー (6)	0	0	83	17	0
衣料品 (3)	0	0	67	33	0
自動車 (5)	0	0	100	0	0
家電製品 (2)	0	50	50	0	0
石油 (7)	0	57	29	14	0
その他 (24)	0	8	88	4	0
その他 (86)	2	15	72	7	4
旅館・ホテル (16)	13	38	43	6	0
運輸 (20)	0	5	75	15	5
サービス (39)	0	13	79	5	3

新型インフルエンザの流行が業績に与えた影響

単位:%、回答企業数=N(311)

全業種 N	プラスの影響	ややプラスの影響	変わらない	ややマイナスの影響	マイナスの影響
製造業 (103)	1	2	64	25	8
食料品 (47)	0	3	69	22	6
織維 (5)	0	0	66	28	6
木材 (3)	0	20	60	0	20
紙・パルプ (3)	0	0	100	0	0
窯業・土石 (11)	0	0	100	0	0
機械・金属 (14)	0	7	57	29	7
電機・電子 (13)	0	0	77	23	0
その他 (7)	0	14	72	0	14
建設業 (40)	0	0	87	13	0
土木 (15)	0	0	87	13	0
建築 (10)	0	0	90	10	0
総合建設 (7)	0	0	86	14	0
その他 (8)	0	0	87	13	0
卸売業 (34)	0	3	59	32	6
食料品 (16)	0	0	50	44	6
建設資材 (7)	0	0	86	14	0
その他 (8)	0	13	49	25	13
小売業 (48)	4	6	52	32	6
百貨店・スーパー (6)	0	0	50	33	17
衣料品 (4)	0	0	50	25	25
自動車 (5)	0	0	100	0	0
家電製品 (2)	50	0	50	0	0
石油 (7)	0	0	71	29	0
その他 (24)	4	13	37	42	4
その他 (86)	0	0	58	27	15
旅館・ホテル (16)	0	0	38	24	38
運輸 (20)	0	0	70	20	10
サービス (39)	0	0	61	31	8

## 最近の業況に関する主な意見

業種		最近の業況
製造業	焼酎	焼酎業界では、企業間格差が生じてきている。 高額品焼酎の売れ行き不振。 不況による接待交際費の削減による料飲店の消費減少。 飲み会全体の減少 などトータルで飲酒機会が減少していると感じる。
		酒類業界は全般に低迷。3~7月まで順調、8~9月から減少し始め、10~11月は特に低下。建設土木業界の不振が大きく、バー・スナック等の業務店の使用も大きく落ち込んでいる。個人消費も1000円以下の安価なものに集中しており、きびしい。
		DSを中心に低価格商品多く、販売先も条件がきびしくなっており、利益率を圧迫。差別化等で生き残りを図りたい。
		全国的な低価格志向は、焼酎業界にも波及し、甲乙混和などビールメーカーの低価格商品中心に動いている。特に県内の芋焼酎への影響は顕著となっている。
	飼料	本県主要産業である畜産業、食肉消費の低迷は、派生する他産業への影響も大きく、官民一体となった取り組みも始まったところであります、グローバルかつ具体的な対策が急がれる。飼料・肥料の需要動向からみて強くそう感じる。
	かつお節	原料生かつお価格が下落(50~70円/キロ)していたが、直近では230円/キロをピークに急騰している。今後の業績悪化へつながると懸念される。
		鰯節業界は、鰯節のキロ当たりの単価が下落した。理由は油多く、良質なかつおの不足によるもので、今後は売上の減少につながると予想。
	水産加工	全国的に価格競争が進んでいる。
	窯業・土石	鹿児島地区生コン組合は完全共販で合意の方向。出荷数量は年々減少傾向にあるが、完全共販の場合、価格表通りの販売となるため各社利益が見込める。また、完全共販で工場数が10から16になるため、出荷数量の減少が統一すれば、工場の集約化が問われる。
		追加経済対策として7.2兆円を示されたが、実施時期が来年度となると、それまでの資金繰りが大丈夫かどうかの心配がある。
		墓石販売については、工場を持たず100%中間製品のみを扱うが、専門店が多数新規参入して、価格競争が激しくなっている。
	機械・金属	不景気とは行っても優秀な人材は首都圏に集中して地方には来ない。従って技術力が向上しない。
		急激な円高により、輸出が難しくなった。
		政権の迷走が受注予定を大きく狂わせた。
		受注回復まで至っていない。当初予測より回復は3カ月程度ずれ込んでいる。回復の兆しは年明け以降となる見通し。
	電気・電子	為替レート円高により、売上高に影響あり。
	運動用具・用品	取引先企業の中国、ベトナム製造移行に伴い、日本での製造が減少しており、来年はまだきびしくなる予想となっている。
	印刷	印刷業界は2年ほど前から業態改革を迫られ、先のリーマンショックで変革のスピードアップも迫られている。しかし、未だ設備ハードありきの、低価格競争が続いている。今後は新スタイルのビジネス展開をしていきたい。
建設業	総合	公共工事減少が民間工事にも大きく影響して、工事量は大幅に減り、競争も激しいため利益がほとんど出ない状況。このような状態で、いつまで経営が維持できるのか全く展望がない。
卸売業	酒類	一般酒類消費が1~2割ほど落ち込んでいる。11月は前年実績に届かず。9月決算までは売上も好調だったが、10月に入ってから急速に悪化した。来年もきびしいことが予想され、先が見えない。
	建材	卸売業界は大変きびしく、今後不良債権が発生しないか不安がある。

業種		最近の業況
小売業	百貨店・スーパー	大型店の進出等で閉鎖した店舗が2カ店あり、非常にきびしい状況。
	衣料	競争激化(競合店の出店が続いている)。販売価格の低下が問題。
	家電	エコポイント期間延長で、来年も売上に期待がもてる。特に夏商戦のエアコン、冷蔵庫には大きなプラス材料だが、エコキュー補助金が事業仕分けにより中止となった点はマイナス。
	石油・ガス	昨年に比べ原油価格は安定しているが、消費マインドの低下が定着し、大型・普通車から小型車への移行が進んでいる。公共事業の減少もあり、石油販売数量確保が困難である。
	建設資材・機械	半導体、車両等部品、資材関連製造業の業績は、最悪1/2~1/3の状況。報道では少し明るさがでたとのことだが、地元は全く暗黒状態から脱却できない。食品関連も、焼酎業界は頭打ちから減少に転じ、設備投資はほとんどみられない。全体的に2番底があるようと思われる。
		競合がきびしく、販売価格の低下となる。商談数も減少している。
	雑貨・書籍等	報道で過剰に悪いニュースが多く、買い控えや貯蓄に回す人が多いと思われる。中国製の土鍋、食器等が出回り、国内メーカーの廃業・倒産が多発。デフレスパイラルに入りつつある。
サービス業	ホテル	高速道路料金値下げで、日帰り客は増加。一方、インフルエンザによる大型団体キャンセルがあり、穴埋めに苦労した。最近は円高のなかでも韓国からのゴルフ客が増加している。
	運輸	宿泊に関して10月中旬までは良かったが、中旬から12月までは悪い。料飲部門は忘年会の入り込みが少し弱く、新年会は極めて悪い。中央駅周辺にホテルなどが増加しており、競争が激化。来年はさらにきびしくなると思われる。
		直接影響を受ける燃料費の値上がりが心配。公共工事の発注に期待する。
		国政は国民置き去り状態で、不透明感が強い。増して高速道路料金値下げ、インフルエンザによる修学旅行中止も相次ぎ、交通運輸業はお手上げ。人・物・金の流動化を望む。
		民主党の方向性が定まらず、燃料コストの見通しが立てられない。平成21年11月より貨物量の減少傾向が強まり、22年1.2月の落ち込みはきびしいと思われる。
		不況や航空各社からの手数料減額・廃止の通達などから、旅行業は来期(4/1)から大変きびしくなると予想される。一方、安価な夜行バスツアーは、不況の影響から年末は特に予約好調。
	遊技場	景気の悪化により、娯楽費に充てる金額が少なくなった。
	自動車整備	大型・特殊車両を中心に整備をしているが、運送業不況で仕事量が少ない。大型車新車の架装の仕事も少ない。まずは景気が良くなることを願うばかりである。
	警備	非常にムード悪し。来期も大型契約先の請負額大幅減少が通告され、人員過剰の対策を熟慮中。営業も実績伸びず、人件費を中心とした固定費削減に努めるしかない。
	不動産	ビル賃料引き下げについて、きびしい要望が依然続いている。
		部屋の賃料低下に歯止めがかからない。住み替えが減少傾向にある(賃貸仲介料の減少)。売買の減少もある。
		先行き不透明で、不動産に対する融資基準がきびしくなっているように感じる。不安感があり、投資を控えているとみられる。
	水産・畜産	鮪魚価は景気不振に伴う消費減退および円高によるデフレ傾向が続く中、低迷している。さらに、魚資源悪化に伴う漁獲不振と相まって漁業経営は非常にきびしい状況。燃料価格も異常高値は脱却したが、油断できない状況。
		鹿児島の養豚業界は、零細、設備不足、餌高、に悩む農家が多く、危機的状況。特に黒豚農家は実質手取り価格が低く、再生産不可能の様子。大手に比べ経営間隔に乏しく、全国で最もきびしいのが現状。